

# 越前若狭 歴史巡り （偉人群像）



福井市立郷土歴史博物館蔵

## 松平春嶽

文政11年(1828)～明治23年(1890)  
弱冠11歳で福井藩主に就いた。春嶽とは号であり、諱(いみな)は慶永(よしなが)と称した

# 明



## 明道館(明新館)跡地

福井城址付近にひっそりと建つ「明道館」跡地の石碑。松平春嶽が将来の有望な人材を育成するために設けた藩校。橋本左内は24歳にして「明道館」の学監同様心得となる。明治維新後は「明新館」と名称が変更された



## 啓発録石碑

福井市左内町にある「左内公園」には橋本左内の墓があるほか、『啓発録』で記した5つの言葉が石碑になっている。『啓発録』の五項目とは以下の通り。  
一、稚心を去る 一、氣を振う  
一、志を立てる 一、学に勉める  
一、交友を択ぶ



福井市立郷土歴史博物館蔵

# 橋本左内

天保5年(1834)～安政6年(1859)

## ゆりこうせい 由利公正

文政12年(1829)～明治42年(1909)。もとの名前を三岡八郎(みつおかはちろう)と称した



福井市立郷土歴史博物館蔵



福井県立図書館蔵

## 「議事之体大意」

由利公正も草案に加わった「五箇条の御誓文」は、彼が記した「議事之体大意」が元になっています。さらに「議事之体大意」は、坂本龍馬が記した「船中八策」を元にもしています

# 議



# 城

## 福井城址

福井市中心部に位置し、現在は石垣と堀を残すのみとなっているが、内堀の大きさから、当時の隆盛をうかがい知ることができる

日本経済の礎を築いた立役者  
**由利公正**

そしてもう一人、橋本左内らとともに福井藩の建て直しに奔走したのが**由利公正**です。彼は財政面において福井藩を建て直し、明治新政府の経済政策にも深く関わっていきました。

福井を訪れた**横井小楠**に師事し、経済について深く学ぶこととなった公正。その知識をもつて**松平春嶽**から福井藩の財政改革を任せられます。藩札を発行、藩内の産業を盛り上げ、見事福井藩の財政再建を果たしました。

その手腕は広く知られることとなり、**坂本龍馬**も福井を訪れては親交を深めていました。その際、新政府での参画を打診され、財政担当として手腕を発揮します。また東京府知事や貴族院議員など、国の中枢部に就いて要職に就き、現代日本の礎を築いたといっても過言ではないでしょう。

春嶽の懐刀として活躍した俊才  
**橋本左内**

**松平春嶽**が登用した人物の中でも、幕末の動乱期に翻弄されながらもひとときわ輝いていた人物こそが**橋本左内**です。医者の家生まれの左内は、弱冠15歳で、自らを奮い立たせるために記した心得『啓発録』を記すなど、聡明かつ広い視野を持つ人物でした。親の後を継ぎ、蘭学医の道を進んでいましたが、黒船来襲とともに、志であった政治の世界へと転進します。

安政3年(1856)、福井藩政への登用が決まり、藩医を務めたほか、藩校・明道館にて教育の振興を担うこととなります。その後、徳川將軍の継嗣問題が起き、福井藩主・松平春嶽とともに活躍しましたが、幕府に逆の意を示したとみなされ、安政6年(1859)いわゆる「安政の大獄」に連坐して26歳という若さでこの世を去りました。